

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 恩田賢

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

私は獣医学部の教員として、助手、講師、准教授、そして現在は教授となり25年以上、教育と研究を行ってきた。専門とするのは産業動物、とくに乳牛、肉牛、羊や山羊などの反芻動物の内科学と臨床病理学であり、研究のテーマとしてはこれらの動物の代謝性疾患と泌乳生理学を中心に、卒論指導などを行ってきた。また、附属動物病院産業動物診療部における診療を通して、獣医臨床教育も行ってきた。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物応用科学概論	動物応用科学科	必修	1	140
動物人間共生論	動物応用科学科	必修	1	140
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	2
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	2
獣医学概論	獣医学科	必修	1	140
産業動物臨床基礎実習	獣医学科	選択	1	140
牧場実習	獣医学科	必修	2	140
獣医畜産管理学	獣医学科	選択	3	100
獣医内科学	獣医学科	必修	4	140
臨床病理	獣医学科	必修	4	140
基礎・産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	4	140
産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	5	140
産業動物臨床実習	獣医学科	必修	5	140
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	5
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	5
卒業論文	獣医学科	必修	6	5
産業動物アドバンス実習	獣医学科	選択	6	5
獣医内科学特論	獣医学専攻	選択	2	1
獣医内科学特別演習Ⅰ	獣医学専攻	選択	2	2
獣医内科学特別実験Ⅰ	獣医学専攻	選択	3	1
獣医内科学特別演習Ⅱ	獣医学専攻	選択	2	2
獣医内科学特別実験Ⅱ	獣医学専攻	選択	3	1
獣医内科学特別演習Ⅲ	獣医学専攻	選択	2	2
獣医内科学特別実験Ⅲ	獣医学専攻	選択	3	1
獣医内科学特別実験Ⅳ	獣医学専攻	選択	3	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医学科の学生は獣医師免許を取得し、獣医師として社会貢献することが求められている。そのためには、私自身の産業動物臨床獣医師としての経験を生かして、牛の臨床の重要性和面白さ、さらにその難しさも教えてきた。命に値段がつけられている動物達に対する愛情、動物福祉にかなった安全安心な食糧の生産、家畜の特異な代謝生理を活かした飼養管理、最新の診療技術、さらには環境への負荷の少ない家畜生産などに関しても、学生に関心を持ってもらいたい。

動物応用科学科の学生には、研究者としての立場から、新しいものを発見する喜びと興奮を伝えていきたい。そのためには、答えが出るように問題を設定し、それを自分で解決できるように指導している。社会に出て、すぐに役立つものは、すぐに役立たなくなるという考えから、学生時代はたとえ地味でも長く頼りになる、圧倒的な基礎力を身に付けて欲しいと考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

教育の理念でも説明したように、答えが出るように問題を設定し、それを自分の力で解決すること、流行りのテクニックではなく、時代の流れが変わっても、常に変化を楽しんで世の中に貢献できる、確実な基礎力を学生時代に身に付けて欲しい。また、臨床学は日々アップデートされる不安定な基礎科学の知識の上に成り立つ学問であり、実践することが必要な技術であることを常に認識する必要がある。そのため、初学年の学生や基礎科目を学ぶ際には、教科書などの成書を読むこと、通読することなども学生に薦めている。配布される資料やプリントばかりでなく、信頼できる教科書をきちんと読み込んで欲しいので、講義科目では教科書を積極的に使用している。意見が分かれている課題や、答えがあることすら分からない問題に取り組む場合、卒業研究のためになじみの薄い分野の原著論文を読む場合にも、道標としての基礎知識は絶対に必要である。また、試験前に過去の問題や、他の人が作ったまとめのノートで勉強するだけは、学問は身につかない。教科書や文献を読むには、時間がかかる。学生時代の時間は学問に投資するべきであり、将来のためにも「読む」時間を確保して欲しい。

講義でも実習でも質問されれば答えるが、特に実習では質問されなければ、必要以上に学生に手取り足取り教えることはしない。実習では知識が十分でない学生同士で教えあっても、極端に間違っている場合以外は無理に介入しない。もし分からない、自信がなくて知りたいことがあれば、そのことを解決する積極性を学生にはもって欲しい。

講義や実習の、始まりの時間と終わりの時間は、可能な限り守るように心がけている。終わる時間は少し早くなってしまうことがあっても、始まりの時間が遅れることはない。約束の時間を守るのは他人の時間はもちろん、自分の時間を有効に使うためにも重要であり、最低限の礼儀と考えている。また、私語や内職などの、他の学生の迷惑になる行為は許さない。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

アクティブラーニングについての取組

- ・臨床実習での症例に対する検査や診断、治療方針や予後の判断は、獣医師として説明する前に各学生に考えてもらい、学生同士でディスカッションもしてもらった。また、ラウンド（症例検討会）では学生に座長と進行を任せ、積極的に、かつ気軽に質問や意見が出やすいようにした。
- ・卒論のミーティングや研究室のゼミでも、学生に座長と進行を任せる。
- ・講義科目でクイズを出した時には、学生にマイクを渡して、順番に解答してもらう。解答した学生が、次に解答する学生を指名する。

(2) ICTの教育活用

有

ICTの教育への活用

- ・講義や実習の連絡、事前学習資料や講義動画、オンデマンド教材の公開、小テストやレポート提出などに学理（学内LMS）を利用した。
- ・学外講師の授業やセミナーではMeetやZoomを利用し、リアルタイムで遠隔教育を行った。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

自分が面白いと思う科学上のトピックを講義の中で説明して、わざと話を脱線する。これによって集中していなかった学生が、再び授業に集中することがある。

(2) 学生の理解度の把握

C

講義や実習中に行う小テスト、および定期テスト。課題レポートの評価など。

（３）学生の自学自習を促す工夫

C

講義終了後に動画を公開する、講義で重要な部分は教科書のどこに書かれているか明示するなどして、復習に取り掛かりやすくした。また、遠隔授業が始まってからは、授業や成績評価の方法だけでなく、講義内容とは直接関係のないチアアップ的な内容の動画もアップロードした（叱咤激励や世間話など）。

（４）学生とのコミュニケーション

B

メールはもちろんだが、Meetで講義時間中にリアルタイムで質問を受けた。

（５）双方向授業への工夫

B

臨床実習で4～5名の班を担当する際には症例を前に、とにかく全員と、たくさん会話することを心がけた。A3専門ゼミやA4科学の伝達、研究室のゼミなど、少人数の学生に対するMeetなどを用いた講義は比較的うまく出来た。COVIS-19以降は獣医学科の100名以上の学生に対してもウェブで双方向授業を行ったが、対面授業や実習の良いところも再認識したので、学生とのコミュニケーションはさらに改善したい。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

獣医事審議会専門委員として、獣医師国家試験が適切に行われるように務めた。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

A)教材や資料の配布が遅い→遅くても24時間前に掲示するように徹底した。

B)実習内容と試験問題の内容が一致しない→V5産業動物臨床実習は病院症例を扱うため、各学生が体験する実習内容は当然ながら異なる。そこで試験問題は獣医師国家試験のC問題に類似させ、将来役に立つように配慮した。

C)臨床実習で経験する症例や動物種を選びたい→症例を選ぶことは難しいが、入院している動物はなるべく多く診られるようにした。牛だけでなく、馬と豚の臨床についてもすべての履修学生に体験させた。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

- A)大部分は24時間前に掲示したが、それでも遅いという学生の声があった。
- B)実習レポート4種類、症例検討会での発表内容、授業態度、実習への積極的参加、筆記試験（獣医師国家試験C問題対応）など複数の項目を組み合わせで最終成績を評価した。
- C)今年度は5日間すべてを対面実習で行い、4回に分け全学生が症例検討会に参加した。担当教職員と学内外の関係者の協力で、馬と豚の実習も1回は全学生に提供することができた。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

- A)教材や資料は可能な限り早期にアップロードするよう、努力と工夫をする。
- B)引き続き実践を利用して、全員に対する筆記試験を行う予定。症例検討会は時間的にも準備が大変だがやる価値はあり、口頭試問的な意味もあるので、来年度も行っていきたい。
- C)最終的な授業評価を参考にして、実習内容を改善していきたい。そのためにも、教員の補充と非常勤教員の採用を要望する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

授業や実習内容の改善以外にはないと考えており、その準備をする時間を確保することが当面の懸案。特にCOVID-19以降、効果的な遠隔講義の方法や、ICTスキルの向上には努めたが、学生との距離が開いた気もする。学生との年齢差が大きくなったこともあるので、積極的に会話する、一緒に手を動かくなど積極的にコミュニケーションをとり、対面学習の価値を見直していきたい。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

希望の仕事への就職、獣医師国家試験の合格など、学生の役に立つように日々心掛ける。また、卒業論文の研究は、学会発表や論文にまとめて公表した。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学内のFD研修会や自主的な教員の勉強会には、可能な限り積極的に参加した。令和元年度版（改訂）獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの（2020年6月22日公開）の、①産業動物臨床学、②産業動物臨床学実習、および③総合参加型臨床実習（産業動物）の改定副責任者として情報収集し、他大学の関係教員と意見交換した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

来年度も担当科目の講義実習を学生がより楽しく、興味が持てるものに改善したい。当然、毎年少しずつ内容やスライドは新しく入れ替えているつもりだが、そろそろしっかり勉強し直して、新しく作り直す必要を感じている。自分自身のマンネリ防止のためにも、研究の最新情報をアップデートした内容にしたい。具体的には、全体の3分の1から半分のスライドや資料を作り直したい（短期的目標）。

麻布大学での教員歴も25年を超えたが、経験で補えるところよりも、新しく学ぶことの方が圧倒的に多いことを実感している。Covid-19以降の遠隔教育やICTの利用、開くばかりの年齢ギャップや価値観の解消、知識のアップデートに対応するためには、教員にも教育と研究のために「勉強する」時間が必要である。大学の教員・研究者としてその時間を作るためには、要を得ない会議や無駄な事務処理などをいかに減らすかが、最も重要と考える。大学での教育では、与える者と受ける者という別々の立場よりも、共に未知のものに取り組むという一体感の方が重要である。教育のための教育だけでなく、研究や臨床のための教育を行っていきたい（長期的目標）。

V5産業動物臨床実習（およびV1産業動物臨床基礎実習）では、動物病院への入院症例数の減少に左右されない、充実した内容と安定感のある参加型臨床実習を行っていきたい。そのためには、大学飼養牛の有効利用や、近隣農場への往診（一次診療）も、視野に入れて実習内容の改善に取り組む。また、授業評価や講義実習中の質問や要望には丁寧に対応し、誤解や説明不足な点は理解されるように説明することを心がける。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

Researchmap： <https://researchmap.jp/read0006821>